



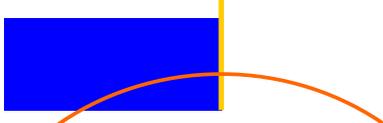
---

# 市民大学院

## 2022 年度前期

### シラバス

---



一般社団法人  
文化政策・まちづくり大学校



# 2022 年度前期 講義・研究会一覧表

|  |    |
|--|----|
| 京都まちづくり学.....                                      | 2  |
| 現代の福祉.....   | 3  |
| 工芸学.....   | 4  |
| 市民と経済学.....  | 5  |
| 市民の家族学.....  | 6  |
| 文化経営学・文化政策.....                                    | 7  |
| 文化経済学.....   | 8  |
| 文化政策・まちづくり演習.....                                  | 9  |
| core-econ で世界に開かれた経済学を学ぼう.....                     | 10 |
| Urban Ecology.....                                 | 12 |
| アダム・スミス研究会.....                                    | 14 |
| 異文化交流・京都研究会.....                                   | 15 |
| Richard Caves, <i>Creative Industry</i> 翻訳研究会..... | 16 |
| 子どものことは 子どもに聴く.....                                | 17 |
| 食文化・食経営.....                                       | 18 |
| 尊徳研究会.....   | 19 |
| 地域文化史研究会.....                                      | 20 |
| 働学研（博論・本づくり）研究会.....                               | 21 |
| 遠野文化資本研究会.....                                     | 23 |
| 西陣職人研究会.....                                       | 25 |
| 文化施設研究会.....                                       | 26 |
| 藤本ゼミ.....  | 27 |
| 保育実践研究.....  | 28 |
| McHarg（マクハーグ）研究会.....                              | 29 |
| モリス翻訳研究会.....                                      | 30 |

# 講義編

| 科目名   | 京都まちづくり学 | 担当者         | 山田浩之 赤崎盛久 |    |
|---|----------|-------------|-----------|----|
| スケジュール  | 第2、第4火曜日 | 17:30~19:00 | オンラインの有無  | 無し |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |          |             |           |    |
| <p>日程：4月～9月</p> <p><b>科目概要：</b></p> <p>「まちづくり」は、実に様々な分野が関係してきます。産業、住宅、環境、交通はもちろん、京都の場合は更に観光、文化、宗教（門前町）なども深く関係してきます。それぞれの分野で活躍しておられる方々に、話題提供をしていただいて受講者全員で議論を深めるゼミ方式の授業です。</p> <p><b>目的：</b>京都のまちづくりを研究する意義として以下の点が上げることができます。</p> <p>① 「文化の発展」が都市の発展において重要な位置を占めるようになってきた今日、1200年におよぶ歴史都市京都は文化によるまちづくりを研究し、実践するにあたりこれ以上の都市はないこと。</p> <p>② 京都は古い事物や建築ほど価値を継承しながら新しい時代の変化に対応しようとする事。</p> <p>③ 京都は学区という濃密なコミュニティに支えられたコンパクトシティのモデルともなりうる事</p> <p>以上、今後のまちづくりのテーマに恵まれた京都でのまちづくりの研究や実践は、これからの都市政策、まちづくりの在り方を考える場合に、多くの都市にとって非常に参考となる。</p> <p><b>講義計画：</b></p> <p>原則として各月の第2、第4火曜日にいたします。</p> <p>標準的には60分間の講師による話題提供や問題提起のあと、30分間の質疑応答ならびに議論の時間を設けます。</p> <p><b>会場：</b>室町高辻西入る旧成徳中学2階</p> <p><b>参加費用：</b>無料</p> <p><b>参加申し込み：</b>不要<br/>(公開講座の場合は市民大学院の受講生以外の方は事前申し込み必要とします。)</p> |          |             |           |    |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |          |             |           |    |
| <p>「京都から考える 都市文化政策とまちづくり——伝統と革新の共存」山田浩之・赤崎盛久 編著<br/>ミネルバ書房 2019年11月20日発行</p> <p>問い合わせ：事務局 赤崎 090-1131-7268, Email: zak00336@ybb.ne.jp</p>   |          |             |           |    |

|   |          |               |      |          |   |
|---|----------|---------------|------|----------|---|
| 科目名   | 現代の福祉    | 担当者           | 藤岡純一 |          |   |
| スケジュール  | 第2, 4水曜日 | 13:30 ~ 15:00 | :    | オンラインの有無 | 無 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |          |               |      |          |   |
| <p><b>日程：</b><br/>5月25日（水）開講、8月24日（水）まで第2・4水曜日</p> <p><b>科目概要：</b><br/>現代の貧困と社会的排除について講義する。<br/>貧困は、通常、所得で測られ、途上国では絶対的貧困、先進国では相対的貧困が問題となる。「相対的剥奪」という概念が相対的貧困論を補完する。さらに、近年「社会的排除」という概念が使われ、貧困に陥るメカニズムを解明している。他方、アマルティア・センは、潜在能力が発揮できない状態を貧困とし、本質的な問いを発している。格差は経済格差に留まらず、学習格差、文化格差となって現れる。<br/>前期は、阿部彩『子どもの貧困』をテキストにし、現代の貧困に切り込む。</p> <p><b>目的：</b><br/>子どもやホームレスなどを取り上げ、具体的に貧困と社会的排除の現状を明らかにしつつ、「貧困」概念や「社会的排除」概念を究明する。そしてそれに対してどの様に取り組むべきかを考える。</p> <p><b>講義計画：</b><br/>第1回：5月25日、阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』（岩波新書、2008）<br/>「はじめに」と第1章「貧困世帯に育つということ」<br/>第2回：6月8日、第2章「子どもの貧困を測る」<br/>第3回：6月22日、第3章「誰のための政策か－政府の対策を検討する」<br/>第4回：7月13日、第4章「追いつめられる母子世帯のども」<br/>第5回：7月27日、第5章「学歴社会と子どもの貧困」<br/>第6回：8月10日、第6章「子どもにとって『必需品』を考える」<br/>第7回：8月24日 第7章「子ども対策に向けて」</p> <p>本書が出版されてからすでに15年近くが経過しているので、新しい資料を付け加えながら講義をする。</p> |          |               |      |          |   |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |          |               |      |          |   |
| <p>阿部彩『子どもの貧困－日本の不公平を考える』（岩波新書、2008）<br/>岩田正美『社会的排除－参加の欠如・不確かな帰属』（有斐閣、2008）<br/>アマルティア・セン『福祉の経済学－財と潜在能力』（岩波書店、1988）他</p>  |          |               |      |          |   |

|   |       |             |          |         |
|---|-------|-------------|----------|---------|
| 科目名   | 工芸学   | 担当者         | 岩田 均     |         |
| スケジュール  | 第三木曜日 | 18:00~19:30 | オンラインの有無 | オンラインのみ |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |       |             |          |         |
| <p><b>日程</b></p> <p>2022年度前期：①4月14日、②5月19日、③6月16日、④7月21日、⑤8月18日<br/>全5回で完結</p> <p><b>講義の目的</b></p> <p>近代大工業文明の暴走が止まらず、地球生命圏の存続が懸念される。その大きな要因として、醜悪化した「工業立国」に代わる、産業のあり方が明示されていない、という問題がある。</p> <p>この「工芸学」講義では、質を求める時代に対応する産業に移行すべく、近未来の麗しき「工芸立国」を日本の各地域から実現する論理と実践の道筋を出来るだけ明らかに提示したい。</p> <p><b>講義計画</b></p> <p>第1回：4月21日<br/>史的大局観：伝統産業の構造とその近代化、近代化の限界と伝統への回帰</p> <p>第2回：5月19日<br/>工芸再評価の論理：ラスキン、モリス、柳、工業の工芸化、クラフトの流行・・・</p> <p>第3回：6月16日<br/>仕事と人間：管理と作業、経営学の間人観、職人仕事の本質、人間的な成長</p> <p>第4回：7月21日<br/>生産性と芸術性：創造と享受の水準、地域共同体の復活、文化資本の継承と創造</p> <p>第5回：8月18日<br/>工芸立国への道：「共成経営」の実践、新しい大学づくり、地域プラットフォーム</p> <p>◎暫定的な案であり、講義当日まで加筆・修正に努めます。</p> <p><b>参加の方法</b></p> <p>市民大学院が提供する市民向け公開講座で、参加費は無料です。</p> <p>参加希望者は、主宰者岩田均にメールで申し込んでください。⇒ <a href="mailto:iwatahit@gmail.com">iwatahit@gmail.com</a></p> <p>主宰者から、申込者に参加用のURLなどをメール送信します。</p> |       |             |          |         |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |       |             |          |         |
| <p>参加者に講義用のパワーポイント資料を送信します。</p> <p>成徳学舎は使用しません。</p> <p>質問や提案など、大歓迎です。</p>   |       |             |          |         |

|               |        |     |      |    |
|---------------|--------|-----|------|----|
| 科目名           | 市民と経済学 | 担当者 | 阿部弘  |    |
| スケジュール        |        |     | 講義形態 | 講義 |
| 日程、概要、目的、講義計画 |        |     |      |    |
| 休講            |        |     |      |    |
| 教科書・参考文献・その他  |        |     |      |    |
|               |        |     |      |    |

|   |          |               |              |  |
|---|----------|---------------|--------------|--|
| 科目名   | 市民の家族学   | 担当者           | 波多野進         |  |
| スケジュール  | 第1, 3火曜日 | 16:00 ~ 17:30 | オンライン<br>の有無 |  |
| 日程、概要、目的、講義計画   |          |               |              |  |
| <p>日程： 通年</p> <p>科目概要：現代社会における家族の変化、またこれからの家族のあり方を市民の立場から考える。</p> <p>目的：われわれの生活の中で日頃あまり意識されない家族の有り様について認識を深め、その上立つ社会と経済の変化を展望する契機とする。</p> <p>講義計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度前半（4月～7月）：参加者が、現代日本の家族について、具体的な事例を報告し、意見交換を行って、これまでの家族のかたち、および、今、どのような変化が生じつつあるかを考える。</li> <li>・今年度後半（9月～12月）：参加者の推薦により、外部からの報告者を招聘する。</li> <li>・年度末（1月～3月）昨年度から継続してきた、事例報告・意見交換を通じて、現代日本の家族の変化と、その意味、さらに、それが社会経済にもたらす影響について考え、取りまとめる。</li> </ul> |          |               |              |  |
| 教科書・参考文献・その他  |          |               |              |  |
| 指定しない。  |          |               |              |  |

|   |            |                          |                 |
|---|------------|--------------------------|-----------------|
| 科目名   | 文化経営学・文化政策 | 担当者                      | 池上惇             |
| スケジュール  | 第1水曜日      | 16:30~17:00, 17:30~19:00 | 講義形態<br>講義・論文指導 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |            |                          |                 |
| <p>講義日程：コロナの関係で、変更することがある。</p> <p>科目概要：文化資本の経営に関する理論の歴史と経営実践事例の二つを焦点として、経営、地域、自治体、国家の文化政策を総合的に展開する。</p> <p>講義計画</p> <p>I 文化資本経営の発生史－一行基、空海、世阿弥、石田梅岩、二宮尊徳、渋沢栄一、福原義春などの経営実践と思想形成を総合的に研究する。</p> <p>II 地域経営の思想と実践－文化資本経営における企業（営利・非営利を含む）と地域の総合的研究。</p> <p>III 学習理論と文化経営－人類の基本的活動としての学習が、文化経営を生み出す過程を解明する。</p> <p>IV 現代の文化政策－学習社会の創造による中流の育成と、経済の制御、経営における学習の意味。労働所有権と知的所有権 経済における人格形成と、人格形成による経済発展<br/>スタートラインの平等と、起業システム、推譲思想</p> |            |                          |                 |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |            |                          |                 |
| <p>教科書：池上惇『学習社会の創造』京大学術出版会、2020年。</p> <p>参考文献：池上惇『文化資本論入門』京大学術出版会、2017年初版、2019年2刷。</p>  |            |                          |                 |

|   |          |               |           |                      |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
|---|----------|---------------|-----------|----------------------|------|------|-------|----------|---------------------|------|------|------|-----------|---------------------|------|------|---------|-----------|----------------------|------|------|--------|-----------|------------------|
| 科目名   | 文化経済学    | 担当者           | 中谷武雄      |                      |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| スケジュール  | 第2, 4水曜日 | 15:00 ~ 16:30 | オンラインの有無  | 目下、対面                |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |          |               |           |                      |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| <p>日程：4月13日に2021年度最終会をやり、5月25日より開始。<br/> 5/25 6/8 6/22 7/13 7/27 ……<br/> 同じ日に、13:30~15:00, 福祉社会論（藤岡純一担当）が開講されます。</p> <p><b>科目概要：</b>ラスキン『この最後の者にも』を読む 中公クラシックス W52<br/> ラスキン『この最後の者にも ごまとゆり』飯塚一郎・木村正身訳、2008年<br/> この最後の者にも：ポリティカル・エコノミーの基本原理にかんする4論文</p> <p><b>講義計画：</b></p> <p>5/25 解説：富士川義之「ターナー擁護者から先駆的なエコロジストへ：ラスキンの生涯と作品」<br/> 6/8 序文</p> <table border="0"> <tr> <td>6/22</td> <td>第1論文</td> <td>栄誉の根源</td> <td>§ § 1~25</td> <td>The Roots of Honour</td> </tr> <tr> <td>7/13</td> <td>第2論文</td> <td>富の鉱脈</td> <td>§ § 26~41</td> <td>The Veins of Wealth</td> </tr> <tr> <td>7/27</td> <td>第3論文</td> <td>地上を審判く者</td> <td>§ § 42~55</td> <td>Qui Judicatis Terram</td> </tr> <tr> <td>8/10</td> <td>第4論文</td> <td>価値に従って</td> <td>§ § 56~85</td> <td>Ad Valorem (従価税)</td> </tr> </table> <p>8/24 未定<br/> ごまとゆり<br/> 年譜</p> <p><b>参考文献：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河上肇「ラスキンの『此最後の者にも』」同『社会問題管見』弘文堂、大正7年9月10日、(3として)所収 現在は、岩波版『全集』9巻所収</li> <li>・大熊信行「ラスキンの職分経済学(上)・(中)・(下)：Unto This Lastの構造」高岡高等商業学校研究会『研究論集』11-4, 12-1, 12-2, 1939, 3, 31, 6, 20, 9, 30</li> <li>・池上惇(1991)『文化経済学のすすめ』丸善：丸善ライブラリー001</li> <li>・中谷武雄(2020, 8)「働きつつ学ぶ」と「学びつつ教える」：ジョン・ラスキンと労働者大学の経験から『経済科学通信』151</li> <li>・中谷武雄(2021, 12)「ジョン・ラスキンと経済学：『この最後の者にも』と「同一賃金による労働の社会的組織化」『経済科学通信』154 ほか</li> </ul> |          |               |           |                      | 6/22 | 第1論文 | 栄誉の根源 | § § 1~25 | The Roots of Honour | 7/13 | 第2論文 | 富の鉱脈 | § § 26~41 | The Veins of Wealth | 7/27 | 第3論文 | 地上を審判く者 | § § 42~55 | Qui Judicatis Terram | 8/10 | 第4論文 | 価値に従って | § § 56~85 | Ad Valorem (従価税) |
| 6/22  | 第1論文     | 栄誉の根源         | § § 1~25  | The Roots of Honour  |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| 7/13  | 第2論文     | 富の鉱脈          | § § 26~41 | The Veins of Wealth  |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| 7/27  | 第3論文     | 地上を審判く者       | § § 42~55 | Qui Judicatis Terram |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| 8/10  | 第4論文     | 価値に従って        | § § 56~85 | Ad Valorem (従価税)     |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |          |               |           |                      |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |
|   |          |               |           |                      |      |      |       |          |                     |      |      |      |           |                     |      |      |         |           |                      |      |      |        |           |                  |

|   |              |                          |               |         |
|---|--------------|--------------------------|---------------|---------|
| 科目名   | 文化政策・まちづくり演習 | 担当者                      | 池上惇、小宮弘信、中谷武雄 |         |
| スケジュール  | 第2日曜日        | 14:00～16:00, 16:00～18:00 | 講義形態          | 講義・論文指導 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |              |                          |               |         |
| <p>科目概要：文化政策・まちづくり学を、地域コミュニティ・デザイン学の視点から、総合的に研究する。同時に、モリス翻訳会を開催して、古典研究を行う。さらに、市民大学院での研究成果を個人が発表する機会ともするので、有志は申し出てください。研究報告は14時—16時の間に行います。研究テーマはご自由に。</p> <p>講義計画</p> <p>I コミュニティ・デザイン学の概要</p> <p>II 地域経営学の概要</p> <p>III 地域社会における事業継承・創造システム</p> <p>IV 地域社会のコモン・ストック・共感・学び合い・育ちあい</p> |              |                          |               |         |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |              |                          |               |         |
| <p>教科書：池上惇『学習社会の創造』、京大学術出版会、2020年。</p> <p>中野健一『日本経営学の成立』国際文化政策研究教育学会、2019年。</p> <p>参考文献：池上惇『文化資本論入門』京大学術出版会、2017年初版、2019年2刷。</p>  |              |                          |               |         |

|  |                          |           |                                   |      |
|--|--------------------------|-----------|-----------------------------------|------|
| 科目名  | core-econで世界に開かれた経済学を学ぼう | 担当者       | 八木紀一郎（ホスト）＋ゲスト講師<br>（オンラインの場合が多い） |      |
| スケジュール   | 4－5月毎週木曜日                | 午前10時～12時 | 講義形態                              | 研究授業 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |                          |           |                                   |      |
| <p><b>日程：</b> 前期 5月12日まで毎週木曜午前10～12時<br/>これは2021年度の続きです。<br/>後期 10月以降に新規再開します。<br/>開講日程は、ゲスト講師・参加希望者と相談して決定します。</p> <p><b>オンライン参加可能：</b> ZOOM 会議室<br/>(ZOOMのURLは、<a href="mailto:yagi@econ.setsunan.ac.jp">yagi@econ.setsunan.ac.jp</a>にご連絡ください、)<br/>後期もオンライン参加可能でおこないますが、詳細は8・9月頃にお知らせします。</p> <p><b>科目概要：</b> 経済学と経済教育の改革運動 core-econ によって生み出され、オンラインで無料公開されている英文テキスト THE ECONOMY: Economics for a changing world (<a href="https://www.core-econ.org">https://www.core-econ.org</a>)を用いて、世界と未来に開かれた経済学を学びます。<br/>前期は2021年度のコースで残った章を済ませます。その後、数か月おいて、後期に、講師陣と日本語の補助教材を準備して再出発します。</p> <p><b>目的：</b> 不平等、環境問題、グローバリゼーション、金融危機、世界経済の変動、パンデミックなどの焦眉の問題に対応できる経済学とその教育および学習法を、一般市民の参加者とともに発展させたい。</p> <p><b>前期講義計画：</b></p> <p>4月7日<br/>UNIT17 大恐慌・黄金時代・世界金融危機<br/>Great Depression, Golden Age, and Global Financial Crisis<br/>(1929年の大恐慌以来の現代経済の変遷を、それぞれの時期の資本主義の特性と経済政策の関係から考察して、現在の状況に至ります。) インTRODクションです)</p> <p>4月14, 21日<br/>UNIT19 経済的不平等(格差) Economic Inequality<br/>世界の若者に経済にかかわって何に関心があるかと問いかけると「不平等(格差)」が最多数の回答になるとのことです。このユニットでは、国際的・国内的な格差の現状とその趨勢、またその評価と対策について、経済学の視点から整理します。</p> <p>4月28日、5月5日<br/>UNIT22 経済学、政治学、公共政策 Economics, Politics, and Public Policy<br/>強制力を備えた国家(政府)と経済の関わりを総覧します。収奪型の独裁政権から、選</p> |                          |           |                                   |      |

挙による政権に移行するとどのような変化がおきるでしょうか。政府に適切な活動（公共政策）を実施させるにはどうすればいいでしょうか。

5月12日 総括討論会

\*\*\*\*\*

後期のコースは、講師陣および参加希望者と討議して時間・日程調整をおこない、10月から実施します。参加希望者はホスト担当者（[yagi@econ.setsunan.ac.jp](mailto:yagi@econ.setsunan.ac.jp)）にご連絡ください。

以下のような人のための講義（当面は研究会？研究授業？ゼミ？）です。

- －現在の経済問題、それに対する経済学と経済学者（エコノミスト）の対応に不満を抱く人
- －経済と経済学の新しい動向を知りたい人
- －しっかりしたテキストで経済学を基礎から学びたい人
- －経済の学習と英語力の活用・強化の一挙両得をねらう人
- －その他

初歩から経済の学習をする人、あるいは長年の経済生活の経験から一家言のある人、どちらも大歓迎です。ゲスト講師やこのオンライン・テキストに関心のある人たちも参加予定ですので、素朴な感想・疑問からはじめて、みんなで討議しましょう。なお、随時・臨時のご参加も歓迎します。

#### 教科書・参考文献・その他

The Core Team, THE ECONOMY. Economics for a changing world (<https://www.core-econ.org>)がテキストですが、共有サイトを設けて、日本語による学習ガイドをダウンロードできるようにします。英語に強い人は、オンライン・テキストの当該章（UNIT）をブラウズするといいいでしょう。

|   |                          |     |                                 |  |
|---|--------------------------|-----|---------------------------------|--|
| 科目名   | Urban Ecology<br>(都市生態学) | 担当者 | Harvey A. Shapiro<br>大阪芸術大学名誉教授 |  |
| スケジュール  | 金曜日 (月1回)                | 午前中 | オンライン<br>の有無                    |  |
| 日程、概要、目的、講義計画   |                          |     |                                 |  |
| <p>科目概要：自然は都市環境のどこにも広がり、<b>Natural Processes</b> (自然の作用) として、それぞれの要素と結びつき、<b>Ecosystem</b> (生態系) を作りだしている。今年度 <b>Chicago</b> 市と <b>Sister City</b> (姉妹都市) である (2018 年に勉強した) 大阪市の環境について学びながら、それぞれの都市を比較しながら、<b>Given Form</b> (源形態) に対して <b>Made Form</b> (人口形態) はいかに適応したかを学ぶ。</p> <p>キーワード：歴史 自然 災害 文化</p> <p>講義計画：各回のテーマ (変更の可能性あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chicago の歴史と発展</li> <li>2. Chicago の地質・地形と災害</li> <li>3. Chicago の水と水系 (特に Chicago 河)</li> <li>4. Chicago の気象と災害</li> <li>5. Chicago の都市計画 (The Burnham Plan)</li> <li>6. Chicago と建築家 Frank Lloyd Wright (F. L. ライト)</li> </ol> |                          |     |                                 |  |
| 教科書・参考文献・その他  |                          |     |                                 |  |
| <p>参考資料:</p> <p>J. Greenberg, <i>A Natural History of the Chicago Region</i>, Univ. of Chicago Press, 2002, ほか</p>  |                          |     |                                 |  |

# 研究会編

| 科目名  | アダム・スミス研究会  | 担当者         | 中谷武雄     |         |  |
|--|-------------|-------------|----------|---------|--|
| スケジュール   | (原則) 隔週 土曜日 | 10:00~12:30 | オンラインの有無 | (目下) 対面 |  |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |             |             |          |         |  |
| <p>日程：4/2, 4/16, 4/30, 5/14……</p> <p>原則隔週土曜日午前開催、日程については事前に確認下さい。<br/>現在は、成徳・市民大学院にて開催中、オンライン併用を相談中</p> <p><b>科目概要：</b>スミスや『国富論』関係を中心に、経済学史、経済思想史や社会思想（史）にかかわる現代的著作を読み進める。<br/>参加者の作成した内容要約のレジメにもとづく報告を受けて参加者で議論をする。</p> <p><b>講義計画：</b><br/>4/2（土） 河上肇『貧乏物語』まとめ<br/>&lt;4月16日以降の、次の教材&gt;<br/>野原慎司『戦後経済学史の群像：日本資本主義はいかに捉えられたか』白水社 2020年12月、2200+税、202+15頁</p> <p>4/16 1 内田義彦：近代化への妨げは何か<br/>4/30 2 大河内一男：労働待遇の改善をどう実現できるのか<br/>4/30 3 高島善哉：社会をどう変えるのか<br/>5/14 4 小林昇：豊かさの達成に必要な前提とは何か<br/>5/28 5 水田洋：真の平等とは何か<br/>6/11 6 伊藤光晴：市場は効率的に機能するのか<br/>……</p> <p>戦後日本のアダム・スミス研究史を彩った、日本を代表する経済学研究者像。</p> |             |             |          |         |  |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>  |             |             |          |         |  |
|  |             |             |          |         |  |

|  |             |             |           |                 |
|--|-------------|-------------|-----------|-----------------|
| 科目名  | 異文化交流・京都研究会 | 担当者         | 金井萬造・枝澤康代 |                 |
| スケジュール   | 第3月曜日       | 13:00~14:30 | オンラインの有無  | 対面を基本にしオンラインも対応 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |             |             |           |                 |
| <p>日程：2022年度前期 ①4月18日、②5月16日、③6月20日、④7月18日、⑤8月15日、⑥9月19日</p> <p>科目概要：グローバル化した現在の21世紀、国際レベルと国内レベルでの異文化交流の在り方が文化面・生活活動面・精神生活面・地域づくり面・連携交流面と多面的で多様な取り組みがされている。京都の都市文化・教育面での人材形成の場（大学や市民レベル）でのあり方に着目して、報告・文献紹介・討議を通して交流し、テーマに沿った報告書をまとめていく。</p> <p>目的： 京都の都市の生活・文化・精神・しごと面での異文化交流の在り方・活かし方を歴史的取り組みから学び、将来の都市文化の方向について異文化交流と地域の在り方、教育の場の在り方を検討し提言する。</p> <p>講義計画：発表者のご都合により、取り上げる時期は前後することもあります。6回分のテーマを整理します。</p> <p>第1回：4月18日 2022年度前期で取り上げる課題の整理と報告等の担当・興味について討議を通して整理する。併せて、文献紹介を予定する。</p> <p>第2回：5月16日 「京都における異文化交流の取り組みの位置づけ」と「大学等の教育と学び合いの場」の中での教え合い・育ち合いの検討をする</p> <p>第3回：6月20日 「地域間交流」でのグローバルレベルの「国際交流」と「異文化理解」のあり方を検討する。併せて、文献紹介を予定する。</p> <p>第4回：7月18日 第1回～第3回の検討を振り返って意見交換を行い、中間段階のまとめを行う。「異文化交流の現状と京都文化の対応」の整理。</p> <p>第5回：8月15日 グローバルレベルにおける「異文化理解への課題と精神面での対応」について検討し行動面でのあり方について検討する。</p> <p>第6回：9月19日 2022年度前期の取り組みのまとめと提言について検討する。併せて、関係文献の紹介を予定する。</p> |             |             |           |                 |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>  |             |             |           |                 |
| <p>参加方法：ご参加をご希望の方は主宰者の一人の金井萬造までメールでのお伝えください。</p> <p>金井のメールアドレス：<a href="mailto:manzok77@gaea.ocn.ne.jp">manzok77@gaea.ocn.ne.jp</a></p> <p>研究会は対面を基本に実施させていただきますがオンラインの併用にも取り組みます。</p> <p>参考文献・報告資料：当日に配布を予定するが、事前のメール配布に努める。</p> <p>研究会の参加者からの文献紹介や報告も歓迎すると共に情報の共有化に勉める。</p>  |             |             |           |                 |

|   |   |        |                      |           |
|---|---|--------|----------------------|-----------|
| 科目名   | Richard Caves, <i>Creative Industry</i> 翻訳研究会 | 担当者    | 池上惇・中谷武雄・藤岡純一・中野健一ほか |           |
| スケジュール  | 原則週末  | 通常は午前中 | オンラインの有無             | オンライン(のみ) |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |   |        |                      |           |
| <p>Caves, Richard E., <i>Creative Industries: Contracts Between Art and Commerce</i>, Harvard University Press, Cambridge, Massachusetts and London, England, 2000.</p> <p>を読み進めています。</p> <p>現在、第 II 部：複雑な創造財の供給、第 7 章 ギルド、組合そして不完全契約をやっています。</p> <p>現在参加者 3 名、毎回相談して次の開催時間帯を決めています。</p> <p>参加希望者は中谷までお問い合わせ下さい。英文、訳文、参考データ、Zoom URL を送ります。</p> |   |        |                      |           |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |   |        |                      |           |
|   |   |        |                      |           |

|   |                   |               |              |  |
|---|-------------------|---------------|--------------|--|
| 科目名   | 子どものことは<br>子どもに聴く | 担当者           | 近藤真理子        |  |
| スケジュール  | 第4月曜日             | 17:30 ~ 19:30 | オンライン<br>の有無 |  |
| 日程、概要、目的、講義計画   |                   |               |              |  |
| <p>日程：4月25日、5月23日、6月27日、7月25日</p> <p>科目概要：日常の中にあるふとした疑問、答えのない問い。それを子どもだけで、あるいは大人も共に考えてみる。子ども、大人関係なく、同じ問いの場に立ち考える。答えなんかない、でも、自由に話し、考え、聴く中で、何かが沸き上がる、見えてくる。そんな時間にしたいと思います</p> <p>目的：子どもという当事者性を大事にするとはいえ、子どもの声を丁寧に聴く、考えるという時間を持つことがなかなか難しい。あらためて当事者と関わるということを考えたい。</p> <p>講義計画：4月25日      こどもって？<br/> 5月23日      ずるいって何<br/> 6月27日      あそびって？<br/> 7月25日      じゅうって？</p> |                   |               |              |  |
| 教科書・参考文献・その他  |                   |               |              |  |
|   |                   |               |              |  |

|  |            |               |      |              |
|--|------------|---------------|------|--------------|
| 科名   | 食文化・食経営    | 担当者           | 岸本直美 | 研究会          |
| スケジュール   | 第 第四火曜日 曜日 | 13時<br>～ 14じ半 | :    | オンライン<br>の有無 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |            |               |      |              |
| <p>日程：前期は7月 後期一回 他視察等不定期</p> <p>科目概要：食経営(小経営)</p> <p>目的：前年度の課題でもありました、篤農家の六次産業化の発展を探る。</p> <p>講義計画：発酵Ⅱ 視察等</p> |            |               |      |              |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>  |            |               |      |              |
| <p>学習社会の創造 2020年 池上惇先生著</p> <p>6次産業化研究入門 2021年 松原豊彦先生・金井萬造先生著</p>  |            |               |      |              |

|   |       |            |             |     |
|---|-------|------------|-------------|-----|
| <b>科目名</b>  | 尊徳研究会 | <b>担当者</b> | 池上惇         |     |
| <b>スケジュール</b>   | 未定    |            | <b>講義形態</b> | 研究会 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>                                      |       |            |             |     |
| <p>尊徳思想における現代的な要素を検討しつつ、地域再生・発展に向けての創造的な協働システム構築を目指す。</p> |       |            |             |     |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>                                       |       |            |             |     |
| <br><br><br><br>  |       |            |             |     |

|   |           |       |           |                              |
|---|-----------|-------|-----------|------------------------------|
| 科目名   | 地域文化史研究会  | 担当者   | 岸本正美      |                              |
| スケジュール  | 第 4 火曜日曜日 | 15時：半 | ～16時<br>： | オンラインの有無<br>原則対面<br>オンラインも併用 |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>  |           |       |           |                              |
| <p>日程： 月 1 回のペース</p> <p><b>科目概要：</b>日本経済史の流れを地域の中から見つめていく。今日まで引き継がれている祭りや工芸技術と信仰に焦点を絞ってやっていきます。</p> <p><b>目的：</b>経済史学の意味を一緒につかんでいきたい。</p> <p><b>講義計画：</b></p> <p>春期 経済的事件 経済学 経済史等の関連を整理していきます</p> <p>夏期 京都の手工業の実例 有力貴族や御所との関係</p> <p>秋期 都と地方の関係</p> <p>冬期 古文書で上記等の記述を照合したい</p> |           |       |           |                              |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>   |           |       |           |                              |
| <p>「文化資本論入門」池上惇 京大学術出版会</p> <p>「オタギ学」岸本正美</p> <p>「国際文化政策」第 11 号 2020 年 11 月 岸本論文</p>  |           |       |           |                              |

|  |                 |     |                      |  |
|--|-----------------|-----|----------------------|--|
| 科目名  | 働学研（博論・本つくり）研究会 | 担当者 | 十名直喜（事務局）太田、濱、システム＝澤 |  |
| スケジュール   | 第 曜日            | ～   | 講義形態                 |  |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |                 |     |                      |  |
| <p>日程： 毎月、月末から第2土曜日、各14～17時、オンライン開催（Zoom）。</p> <p>2022年2～3月予定：2月19日（土）14～17時、3月19日（土）＝学会共催13～17時</p> <p>4～6月予定：4月23日（土）、5月21日（土）、6月18日（土）、各14～17時</p> <p><b>科目概要：</b></p> <p>働学研（博論・本つくり）研究会、略称：働学研は、2019年7月に発足しました。月1回、月例会を開催しています。月例会の他にも、博論検討会や書評会など開催しています。</p> <p>市民大学院の成徳学舎にて産声を上げ、国際文化政策研究教育学会、基礎経済科学研究所他にも広がってきました。コロナ禍を機に、2020年7月以降は、オンライン開催をベースにしています。</p> <p>働学研は、数名から出発し90名になっています。月例会には毎月、数本の発表があり、20～30名の参加を得て、ワイガヤで楽しく学びあっています。これまでにご報告・ご参加いただいた方には会員として、各種のお知らせをお送りしています。</p> <p>主宰者（十名直喜）の想定を超えて、多彩な研究交流や出会い、自己実現が生まれています。</p> <p><b>目的：</b></p> <p>働学研は、研究の初心者から熟達者に至る社会人研究者の多様なニーズに応え、楽しく真摯に議論できる研究交流の場として、2019年7月に発足しました。</p> <p>近年、在野の社会人研究者の受け皿、すなわち彼らの研究成果を受けとめ洗練化の指導を行ったうえで学位（論文博士）を出すことが、難しくなっています。本研究会は、近隣大学院とも連携してそうした時代状況を切り拓き、博士論文づくり、博士号の取得、単著書出版などを、社会人研究者が実現できるように支援する研究会です。発足以来、社会人博士2人が誕生しています。</p> <p>働学研にご参加いただき、多彩な仕事・人生現場の息吹を体験しつつ、学びあい磨き合う場として、ご活用いただければと願っています。</p> <p><b>講義計画：</b></p> <p>参加者が、自らの仕事や産業、地域、生活などを研究対象とし素材にして、論文やレジメなどをまとめて発表し議論する。それをふまえて、論文などを洗練化していく。そのようなやり方で、運営しています。創造的な仕事・研究人生を、各位が主体的に切り拓いていく。その大事業に、伴走し支援していく所存です。</p> <p>下記に示すように、多様な学び欲求や研究ニーズをお持ちの方が参加されています。青壮老にまたがり、社会人、大学人、定年退職者など、研究分野、水準、職業、階層も多岐にわたっています。</p> <p>A：これまでの仕事と社会活動、問題意識を深く考察し、論文や随筆にまとめて学術誌などで発表したい。</p> <p>B：これまでまとめてきた論文や随筆を体系的に編集し、足りない部分を加えて、1冊の本にしたい。</p> |                 |     |                      |  |

C：上記 B を博士論文に仕上げ、申請・審査を経て学位（博士号）を取得したい。  
D：博士論文を洗練化して学術書として出版したい。  
E：いずれも成就しているが、さらなる高みをめざしたい。  
これまでの研究や仕事、生き方をまとめたい（AB）。さらなる高みを極めたい（CDE）。

まずは、AB のような思いを抱かれていますの方の参加を促して、すそ野を広げていく。さらに（CDE に示すように）、博士論文づくりへの支援にも力を入れ、社会人博士の誕生、単著書の出版を図っていく。そのような幅広い視点から取り組んでいます。

毎年、新たな社会人研究者を会員に迎えています。複数の単著書が出版されており、博士論文の仕上げも複数がカウントダウンに入っています。

ご参加、ご発表をお待ちしています。

ご参加、ご発表の方は、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。

### 月例会の URL

<第 30 回働学研オンライン研究会：2022 年 2 月 19 日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/87156937078?pwd=UXQ3eEdmY25aQzAybTdWVDd5ZWpuZz09>

ミーティング ID: 871 5693 7078    パスコード: tona0219

<第 31 回働学研オンライン研究会：2022 年 3 月 19 日 01:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/83488561549?pwd=azB2Um05U3JybVQwbTdpclFPU096UT09>

ミーティング ID: 834 8856 1549    パスコード: tona0319

<第 32 回働学研オンライン研究会：2022 年 4 月 23 日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/83458804736?pwd=cWVITGxya05zVFdGQUZJTldlcnRRZz09>

ミーティング ID: 834 5880 4736    パスコード: tona0423

<第 33 回働学研オンライン研究会：2022 年 5 月 21 日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/84633851497?pwd=b2wrT0YyMmpyQ0IzaGdodnRSYi91UT09>

ミーティング ID: 846 3385 1497    パスコード: tona0521

<第 34 回働学研オンライン研究会：2022 年 6 月 18 日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/86021331919?pwd=RW9lNW81K3V5eHJmTUwwTW0zSjFoZz09>

ミーティング ID: 860 2133 1919    パスコード: tona0618

教科書・参考文献・その他

|  |           |             |          |                   |
|--|-----------|-------------|----------|-------------------|
| 科目名  | 遠野文化資本研究会 | 担当者         | 金井萬造     |                   |
| スケジュール   | 最終週の日曜日   | 14:00~15:30 | オンラインの有無 | 対面を基本にオンラインにも取り組み |
| 日程、概要、目的、講義計画  |           |             |          |                   |
| <p>日程： 2022年度前期：①4月24日、②5月29日、③6月26日、④7月31日、⑤8月28日、⑥9月25日</p> <p>科目概要：対象を遠野に絞り、文化資源と人材の関係する取り組みについて、遠野の地域の現状と京都を中心にした研究者の専門分野からの「文化資本」の活かし方と地域創造・地域経営・人材づくり・文化（衣食住のデザインと生活の在り方）について検討していく。福祉医療介護等の新たな分野についても追加して取り組む。</p> <p>目的： 遠野地域の人財と地域資源の取り組みでの文化資本の取り組みのあり方を遠野地域の現状から風の役割として京都及び全国各地・世界との繋がり・連携・協働の視点からこれまでの取り組みを研究会としてまとめて情報発信を企画・実行する。</p> <p>講義計画：各参加者の専門分野からの取り組みの報告とまとめた発信に向けての原稿の執筆に取り組む。各回の報告と討議は第1回の研究会で具体化し、予定と準備と発表を順次実施していく。コロナ禍等もあるが秋期には現地での研究会・情報発信会を企画していく。遠野の現地の状況は遠野の現地の人脈（体制）の構築と合わせて情報の収集等に取り組んでいく。</p> <p>第1回：4月24日 研究会参加者の各専門分野からのこれまでの研究成果と発信について、報告と意見交換を行う。出版企画案の提示と意見交換、スケジュールとの日程について検討する。</p> <p>第2回：5月29日 遠野の現地での取り組みについて、報告と意見交換を行う。執筆にあたっての現地の関係者との連携についての対応の目途と連携・繋がり・協働の対応について検討する。</p> <p>第3回：6月26日 取りまとめられた方から、発表をして頂く。分野は「布のある食と織の暮らし」、「農と食に連携と食文化・食経営」、「京もちりめん細工の普及・事業化の取り組み」、「西陣織と遠野の工芸文化の発展と連携」、「コミュニティまちづくりと地域経営の取り組み」、「文化経済・文化経営の視点から見た遠野の在り方」、「福祉医療介護分野での遠野の取り組み」、等。</p> <p>第4回：7月31日 報告の続きと意見交換。出版企画案の検討と出版に向けての体制づくりの検討を行う。</p> <p>第5回：8月28日 報告の続きと意見交換。遠野の現地での研究会の企画に検討。</p> <p>第6回：9月25日 出版対応の最終の検討。原稿と出版準備と最終の点検。</p> |           |             |          |                   |

### 教科書・参考文献・その他

参加希望者は研究会の主宰者の金井萬造までメールでご連絡をお願いします。

金井萬造のメールアドレス：[manzok77@gaea.ocn.ne.jp](mailto:manzok77@gaea.ocn.ne.jp)

毎回の研究の資料は当日に配布と事前のメールでの配信に勉める。

研究会は基本的には市民大学院（成徳学舎）の対面を基本とする。

オンラインの対応は白石智宙先生にURLのご対応をお願いしていく。

遠野の現地からのオンライン対応については今後検討していく。

|  |         |             |                      |
|--|---------|-------------|----------------------|
| 講義科目名  | 西陣職人研究会 | 担当者・職<br>氏名 | 西陣麻島織物<br>代表取締役 麻島正資 |
| スケジュール   |         |             | 講義形態                 |
| 日程、概要、目的、講義計画、内容   |         |             |                      |
| <p>I 京都市・府の伝統産業工房への訪問、工房見学を研究会の中心に熟練職人の手仕事を体感するとともに現場から「京都の文化資本」を考えていきます。</p> <p>II 京都文化資本、京都の伝統産業、環境保全を歴史的な視点から見つめ、どのように形成されていくのか？今後の発展と方向性、未来を研究致します。</p> <p>京都市上京区、古武氏京町屋と染工場訪問<br/> 京都市北区、西陣金襴織物工房と織姫神社参拝<br/> 京都市伏見区、草木染工房訪問<br/> ※各研究会は、工房が小さい為、工房から人数制限があり、こちらで調整させていただきますので、御了承ください。</p> |         |             |                      |
| 教科書・参考文献・その他   |         |             |                      |
| 「京都の歴史」学芸書林、1970年<br>「伝統工芸品技術事典」伝統的工芸品産業振興協会、1980年<br>「織物組織意匠法」田島弥一、1981年<br>「西陣襟飾百年」西陣織ネクタイ100周年記念誌編集委員会、1992年<br>「西陣グラフ」「西陣年鑑」西陣織工業組合  |         |             |                      |

|  |             |             |          |         |
|--|-------------|-------------|----------|---------|
| 科目名  | 文化施設研究会     | 担当者         | 中谷武雄     |         |
| スケジュール   | (原則) 隔週 月曜日 | 10:00~12:30 | オンラインの有無 | 対面 (重視) |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |             |             |          |         |
| <p>日程：3/28, 4/11, 4/25, 5/9, 5/23, ……<br/>原則隔週月曜日午前開催、開催日程は事前に確認下さい。</p> <p><b>科目概要：</b>文化施設に関する研究書を中心に教科書として取り上げて、参加者が順番に分担して内容要約資料を作成して報告し、全員で議論する。</p> <p><b>講義計画：</b><br/>教科書として、「博物館の未来を考える」刊行会編『博物館の未来を考える』中央公論美術社、2021年、を採用し、以下の各論文を順次読み進める。<br/>3/28, 栗原祐司「文化政策としての博物館法改正に向けて：その課題と展望」<br/>4/11, 小佐野重利「博物館法改正に向けての日本学術会議の提言：2つの発出を終えて」<br/>4/25, 佐々木秀彦「文化審議会博物館部会における博物館法改正の検討から」<br/>5/9, 井上由佳「ユネスコ博物館勧告：ICOM規約（博物館定義）から見た日本の博物館法」<br/>5/23, 松田陽「観光政策と博物館認証制度」<br/>…… 栗田秀法「間に合う学芸員資格取得者の養成は可能か<br/>新たな学芸員養成課程への課題と展望」<br/>金山喜昭「学芸員を研究職と認定する制度について」<br/>佐久間大輔「アカデミアの一部としての博物館、社会の中の博物館」<br/>芳賀満編「シンポジウム、パネルディスカッション」<br/>同書付録には、提言、議事録、博物館法・条文が収録されています。</p> <p>&lt;次の予定教科書&gt;<br/>東京大学文化資源学研究室編『文化資源学：文化の見つけかたと育てかた』新曜社、2021, 11, 2600+税<br/>帯表：「文化資源学」とはなにか？ / 多様な文化を「おと・ことば・かたち」という原点にたって、見直し育てようとする「文化資源学」。東京大学で始まった文化資源学が、20年たってどのように成長したか、その魅力と展望を多面的かつ具体的に報告する。「文化資源学」への扉を開ける13本のエッセンスを収録。</p> |             |             |          |         |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>  |             |             |          |         |
|  |             |             |          |         |

|   |         |               |              |  |
|---|---------|---------------|--------------|--|
| 科目名   | 藤本ゼミ    | 担当者           | 藤本文朗         |  |
| スケジュール  | 第 4 日曜日 | 13:30 ~ 15:30 | オンライン<br>の有無 |  |
| 日程、概要、目的、講義計画   |         |               |              |  |
| <p>日程： 5月22日、6月26日 7月24日</p> <p>科目概要：人間発達を資本論に即して紐解きます<br/>基礎研究をもとに、ひきこもりや社会的養護について考えたい</p> <p>目的：テキストを分担して、発表をして討議を行う</p> <p>講義計画：</p> |         |               |              |  |
| 教科書・参考文献・その他  |         |               |              |  |
|   |         |               |              |  |

|   |          |                   |              |       |
|---|----------|-------------------|--------------|-------|
| 科目名   | 保育実践研究   | 担当者               | 近藤真理子        |       |
| スケジュール  | 第 3 土 曜日 | 20 : 00 ~ 22 : 00 | オンライン<br>の有無 | オンライン |
| 日程、概要、目的、講義計画   |          |                   |              |       |
| <p>日程： 4月16日、5月21日、6月18日、7月16日、9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、1月14日 2月18日</p> <p>科目概要：文献購読を中心に 事例を出し合い、検討をしあう</p> <p>目的：保育における保育者のかかわりについてをあきらかにし、保育者養成において、実習指導等々に生かす。</p> <p>講義計画：前半はオンラインで 小川博久『保育援助論』を購読する。その後、適宜、それぞれの関心に基づき、選書をすすめる</p> |          |                   |              |       |
| 教科書・参考文献・その他  |          |                   |              |       |
| 小川博久『保育援助論』2000   |          |                   |              |       |

|  |                    |         |                                 |
|--|--------------------|---------|---------------------------------|
| 科目名  | McHarg (マクハーグ) 研究会 | 担当者     | Harvey A. Shapiro<br>大阪芸術大学名誉教授 |
| スケジュール   | 参加者と相談する           | 月 1 回程度 | オンラインの有無                        |
| 日程、概要、目的、講義計画  |                    |         |                                 |
| <p>科目概要：市民大学院において 3 年間、私の恩師であった世界的に著名な都市・地域生態計画者 Prof. Ian L. McHarg の計画哲学にもとづいた国内外の実例を紹介しようとしてきました。しかし、McHarg 先生の人物像については、まだ詳しく話していません。この研究会では、彼の自伝 <i>A Quest for Life</i> をあえて英語で紹介してみたい。もし可能なら、希望があれば、参加者と、できるだけ英語で discussion したいと考えています。また、自伝を読みながら、興味、あるいは関心のある人は Shapiro と contact をとって、相談しましょう ((hashapiroinkyoto@gmail.com)).</p> <p>講義計画：講義参加希望者と Shapiro との話し合いによって決めます。</p> <p>研究会メンバーに：英語力を伸ばしたい、生かしたい参加者は、充実した時間を過ごせます。</p> <p>実施方法：reading and discussion (できるだけ英語で)</p> <p>採り上げるテーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Environmental Decade (1970s)</li> <li>2. A New Life (新生活)</li> <li>3. Retrospect and Prospect (振り返りと期待)</li> </ol> |                    |         |                                 |
| 教科書・参考文献・その他   |                    |         |                                 |
| <p>Ian L. McHarg, <i>A Quest for Life: An Autobiography</i>, John Wiley &amp; Sons, Inc., 1996</p> <p>Harvey A. Shapiro, <i>Prof. Ian L. McHarg, His Life and His Quest</i> (ハーヴィ・A. シャピロ『大樹、イアン・L. マクハーグ教授：自然・環境に生涯を捧げた巨人』)、京都市民大学院、2020 年 11 月 20 日</p>  |                    |         |                                 |

|  |                |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
|--|----------------|-------------|----------------------|-------------------------------|-------------------|------------|-------------------------|------------|----------------------|------------|-------------------------|-------------|---|------------|----------------------------|--------------|--------------------------|----------------|
| 科目名  | モリス翻訳研究会       | 担当者         | 池上惇・中谷武雄・小宮弘信・堀田美穂ほか |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| スケジュール   | 原則 日曜日         | 10:00~12:00 | :                    | オンライン<br>の有無<br>オンライン<br>(のみ) |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| <b>日程、概要、目的、講義計画</b>   |                |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| <p>日程： 4 / 3 ……</p> <p>現在参加者3名、3人で相談して次の開催時間帯を毎回決めていきます（週末中心）。<br/>参加希望者は中谷までお問い合わせ下さい。英文、訳文、参考データ、を送ります。</p> <p><b>講義計画：</b></p> <p>William Morris (1882), <i>Hopes and Fears for Life</i>. 収録全5篇読破を目標に、訳文を検討しています。<br/>モリス、ラスキン、ラファエル前派などに関連する個人研究発表も交えています。</p> <p>第1論文：The Lesser Arts、第2論文：The Art for the People、をほぼ終えました。</p> <p>・『Hopes and Fears for Art』の5編は以下の講演である。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">「The Lesser Arts」</td> <td style="text-align: right;">1877年12月4日</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">「The Art of the People」</td> <td style="text-align: right;">1879年2月19日</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">「The Beauty of Life」</td> <td style="text-align: right;">1880年2月19日</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">「Making the Best of it」</td> <td style="text-align: right;">1880年11月13日</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">「The Prospects of Architecture in Civilization」</td> <td style="text-align: right;">1881年3月10日</td> </tr> </table> <p><b>参考文献：</b></p> <p>・ウィリアム・モリス『民衆の芸術』中橋一夫訳、岩波文庫、1953年<br/>民衆の芸術 1879年講演・バーミンガム市公会堂→『芸術の希望と恐怖』1882年</p> <p>・ウィリアム・モリス『素朴で平等な社会のために：ウィリアム・モリスが語る労働・芸術・社会・自然』城下真知子編・訳、せせらぎ書房、2019、1800</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 私はいかにして社会主義者になったか（1894年）</td> <td style="width: 50%;">2 小芸術（1877年）</td> </tr> <tr> <td>3 不当な競争：英国の労働者たちへ（1877年）</td> <td>4 民衆の芸術（1879年）</td> </tr> </table> <p>・モリス『民衆のための芸術教育』内藤史朗訳、梅根悟・勝田守一監修『世界教育学選集 063』明治図書出版、1971年</p> |                |             |                      |                               | 「The Lesser Arts」 | 1877年12月4日 | 「The Art of the People」 | 1879年2月19日 | 「The Beauty of Life」 | 1880年2月19日 | 「Making the Best of it」 | 1880年11月13日 | 「The Prospects of Architecture in Civilization」 | 1881年3月10日 | 1 私はいかにして社会主義者になったか（1894年） | 2 小芸術（1877年） | 3 不当な競争：英国の労働者たちへ（1877年） | 4 民衆の芸術（1879年） |
| 「The Lesser Arts」  | 1877年12月4日     |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 「The Art of the People」  | 1879年2月19日     |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 「The Beauty of Life」   | 1880年2月19日     |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 「Making the Best of it」  | 1880年11月13日    |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 「The Prospects of Architecture in Civilization」  | 1881年3月10日     |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 1 私はいかにして社会主義者になったか（1894年）   | 2 小芸術（1877年）   |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| 3 不当な競争：英国の労働者たちへ（1877年）   | 4 民衆の芸術（1879年） |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
| <b>教科書・参考文献・その他</b>  |                |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |
|  |                |             |                      |                               |                   |            |                         |            |                      |            |                         |             |   |            |                            |              |                          |                |

市民大学院  
一般社団法人  
文化政策・まちづくり大学校

発行 一般社団法人文化政策・まちづくり大学校 事務局

発行日 2022年4月1日(金)

場所 京都市下京区高辻通室町西入る繁昌町290番地